

平和とは何か

第31回 広島平和体験学習 参加報告集



広島平和体験学習事業が
8月4月から7日の日程で
行われました。
広島市へ平和体験学習に
参加された中学生4名・引率
者2名から報告をいただき
ました。

《参加者》

中嶋 健さん (トママ中)
石坂 陽都さん (占冠中)
堀江 伽倉さん (占冠中)
森田 芽依さん (占冠中)
井須 哲朗さん (引率)
合田 幸さん (引率)

本当の平和

トママ中2年 中嶋 健

僕は、今回広島へ行き8月6日に平和記念式典に参加しました。その後、幼少期に原爆の被害に遭われた被爆者の方から話を聞き、広島平和記念資料館という戦争の悲惨さを伝える資料館へ行きました。そこで、学んだことを皆さんに伝えたいと思います。

まず最初に、原爆について説明します。原爆は核分裂という原子核が分裂するときに出されるエネルギーを兵器として利用したものです。火薬を使った爆弾よりはるかに大きい威力があります。さらに原子爆弾は爆発後放射線を出します。この放射線の影響で人間は白内障、白血病、がんなどの発生率が高くなると言われています。原爆がさく裂した時、広島には35万人もの人々が住んでいました。しかし、年末までに13〜15万人が死亡したそうです。アメリカが落とした原爆は「リトルボーイ」という名で、3.12mもの長さで、約5トンもの重量があつたそうです。

次に、寺尾さんという被爆者の話について書きます。この寺尾さんは現在75歳で原爆が落ちた時にはまだ4歳だったそうです。アメリカが使った爆弾は焼夷弾でした。アメリカ軍は当時日本の家が木や紙でできているのを知っていました。とても燃えやすいので、火を使って燃やそうと考えたのです。当時、家が遠くて爆発の被害にあまりあわなかつたそうです

が、逃げてきた人々を家に入れてあげたそうです。最後、寺尾さんに戦争の時に困ったことは何かと質問しました。答えは、物資や食料が満足にないこと、これは自分だけでなく、当時の人々は皆感じていただろうと言っていました。

最後に、今回の広島へ行くまで日本はとても平和だと思っていました。それは戦争もしていないし、友達や家族と楽しく暮らしているからです。ですが、広島に行つて被爆された方の話を聞いたり、資料館に行つたりして、「本当に平和なのだろうか。」と思いました。もちろん、戦争をしていないことは大切ですし、平和とも言えると思います。しかし、戦争から70年ほどたった今でもアメリカ、ロシア、中国、他にもいくつかの国が核兵器を保有しています。僕は、それらの核兵器が一つでもあり、使われる可能性があるのなら、本当に平和とはいえないと思います。だから、世界から核兵器をはじめとする様々な兵器が無くなれば、本当の平和、世界中の人々が心から安心して暮らせるという「心の平和」が訪れるのではないのでしょうか。

広島で知つた核兵器

占冠中2年 石坂 陽都

僕たちは、3泊4日の日程で、広島に平和体験学習に行つてきました。

8月6日に行われた平和記念式典。その中で僕たちは、改めて平和の尊さ

を知ることができました。その後、証言のつどいに参加し、被爆者からお話を伺い、その中でも僕は、戦争で実際に使われた兵器について詳しく話を聞きました。

戦争では、まずは小銃の打ち合いから始まり、続いて機関銃が使われるようになりました。その後、隠れた敵を攻撃するための迫撃砲が作られましたが、それよりもっと効率のよい攻撃方法が誕生します。そう、戦闘機です。戦闘機は機銃で地上の人々を次々に殺りくすることも、焼夷弾を使つて街一つそのものを全て焼き払うことも可能になりました。そして戦闘機が生まれた結果、広島と長崎には原子爆弾が落とされてしまうのです。

その原子爆弾について私たちがどれほどのことを知っているのでしょうか。

原子爆弾は、核分裂が非常に短い時間に連続して起こる莫大なエネルギーを利用して兵器です。広島に落ちた原爆には、およそ50kgのウラン235が詰められていたとされますが、その中で瞬間的に核分裂を繰り返して、高性能火薬約1万6千トン分の巨大なエネルギーを放出したのはわずか1kgにも満たない原子だったと言われています。

戦争では、様々な兵器が生み出され、多くの人々を死に至らしめました。この文章を書く中で、兵器の進歩の歴史は、人類の歩んできた血の道であり、忘れてはいけない負の歴史なの



被爆体験に真剣に聞き入る参加者

だということに気づきました。今日に至ってもアメリカや中国など、核を保有している国はまだまだあります。しかし、その核は決して「戦争を起こさないための抑止力にはならない」ということを、少しずつでも世界に広げられたらいいと思います。

平和がほしい

占冠中2年 堀江 伽倉

今回、私は原爆が落とされた広島へ平和体験学習として行かせていただきました。そこで学んだことを報告します。

8月6日午前8時15分、幸せでにぎやかに暮らしている広島にアメリカ軍

から実験として原爆が落とされました。あたりが一瞬明るくなったと思っただ次の瞬間、広島は火の海となつてしまいました。家があつたのかわからないくらい、全て燃えてしまいました。罪のない人々の命も奪われてしまいました。もちろん、動物の命も。

続いて、実際に広島に落とされた原爆の模型を見ました。私が手を広げても足りないくらい大きかったです。とても大きく大きい爆弾が空から落ちてきて全てをもなくす力があると知つてとても怖く思いました。そして、この爆弾は爆発するだけでなく、放射線も放射します。強烈な熱線と暴風は、爆心地から2 km以内にあつたほとんどの建物を破壊し、焼きつくし、放射線による急性障害がおさまつたとされる1945年12月末までに約14万人もの尊い命が失われました。

続いて、直接被爆した人ではないが、被害にあつた高安さんの話を聞きました。高安さんは、8月7日に広島に行つたそうです。広島に行つて一番印象に残っている光景は、4〜5 km離れていてビルで見えないはずの海が見えたこと。駅がないことだそうです。道の両側に倒れたり、「水をください」と言っていたそうです。でも水は持つていてもあげられませんか。なぜなら水を飲むと早く亡くなってしまうからです。なぜ、こんなに苦しい思いをしなくてはならないのだらうと思います。私は絵や写真を見てものすごい衝撃

を受けました。最初は戦争がこんなにひどいものとは全く想像していませんでした。だけど、写真に写っている怪我をした人などの目を見たら絶望的な目をしていました。原爆が落ちた時の絵は今では考えられないくらいひどい光景でした。あの絵や写真を見て、本当の戦争、原子爆弾が恐ろしいものだと感じました。二度と大切な命を落とすようなことや、人を苦しませたり、悲しませたり、辛い思いをさせてはいけないと思います。

核爆弾のおそろしさ

占冠中2年 森田 芽依

8月6日午前8時15分広島に投下されたリトルボーイと呼ばれる原子爆弾。人々は一瞬で全身に火傷を負いました。広島には火傷を負った人たちが、臓器が出たり、眼球が飛び出したりした人たちが「水をください。」と水を求め、そして家族を探しながら歩きました。川にはたくさん死体が浮かんでいました。広島は一瞬で焼け野原となりました。

一瞬で焼け野原となった広島では、被爆したのがれきや死体でいっぱい道を歩いて、家族のもとへ帰ろうとする人、子どもを探す親などがたくさんいました。そんな中連絡手段として使われたのが「がれき」です。被爆してなくなった子どもの名前を家族ががれきに刻んだのです。被爆体験者の高安さ

んは、8月7日下関から広島の家に戻った時、家のふすまにスミで書かれた文字で家族の居場所そして怪我の状態などを知らることができたそうです。

私は8月6日に行われた「とうろう流し」に参加して、他の人がとうろうに書いた内容や広島平和記念式典で聞いた話を思い出して、「みんな戦争を望んではいない。平和が続くことを願っている。」と思いました。そしてテレビのニュースで見た被爆体験者は、「こんなにづらい思いをするのは私たちだけではない。」と話していました。それを聞いて私はもう辛い思いや経験をさせる人を出さないためにも、核爆弾を廃止し、戦争をしないことが大切だと思いました。



平和への願いを込めたとうろう流しに参加